

宮城県石巻市・震災復興学習支援 レポート②⑩

私塾ネット 出前寺子屋 「検定合格講座」

◆活動報告その⑩[2012年5月27日]

5月も最終週に入ると、東北は緑の季節を迎える。ましてや仙台は「杜の都」、整備された檜並木を抜ける風は初夏の香りを含んでいる。

5月27日、出前寺子屋は20回目のスクーリングを迎えた。この間受講生は48名を数え、過去2回の漢字検定では42名が受検し、40名が合格を得た。現在の登録受講生は漢検25名、英検9名となっている。このうち月2回のスクーリングに出席されるのは、ほぼ25名前後なので出席率8割といったところだ。4月以降中学生の皆さんの欠席が目立っている。部活動が盛んになり、対外試合が続くとどうしても日曜日を空けることができないのだ。これは日本中どこであれ同じことで、塾にとっては授業の配分に苦心するところだ。だが出前寺子屋は、月2回の日曜日の午後と開講時間が固定しているため、いかんともしがたい。

さて20回目のスクーリングに参加した指導スタッフは、埼玉県三郷市から大住さん一家3名(明敬・千栄子夫妻と聖志君・聖学舎)と深谷市から蓮克彦・麻美夫妻(彩北進学塾)、そして我々谷村志厚と和枝(AIM学習セミナー)の7名。これに石巻の佐久間昭一郎さんと木伏良明さんが加勢に駆けつけてくれた。一方受講生は23名と少々欠席が目立ったが、スタッフ9名を加えると総勢32名となり、ささえあい拠点センター集会所はけっこうなぎわいとなった。



寺子屋会場の拠点センター前で、大住さん一家と蓮さん夫妻。大住さんは3回目、聖志君は2回目、他の方々は初参加である。

新幹線で仙台入りした大住さん一家と谷村のメンバー5名は、レンタカーに乗車し一路石巻へ向かった。仙台東部道路を北上し三陸自動車道路を進む。いつになく道路は空いており、快適なドライブで予定時間より30分も早く石巻港出口を降りて停車する。ここで待ち合わせの蓮さんに一報を入れると、なんと真後ろに車の影が現れ、絶妙なタイミングでみごと合流となった。ここから谷村の運転の先導で、石巻工業港から南浜、門脇、魚町と津波被災地に車を進める。いくらか時間に余裕ができたので、隣町の女川まで足を延ばす。内陸湾である景勝地万石浦を右に見ながら、なだらかな峠を超えると女川である。ここからかつては、女川湾に面した活気あふれる女川漁港の町並みが望めたのであろうが、現在は何も無い。町役場もJR駅も観光施設のマリパルも姿を消し、高台の町営病院や学校がわずかに昔の姿をとどめるばかりだ。がれきの街道を抜け町を一周したのだが、初めて女川の津波被災現場を目の当たりにされた同行の皆さんは、大きな衝撃を受けたことであろう。

午後1時ちょうど、会場となる仮設開成団地ささえあい拠点センター集会所に入る。急ぎテーブルを配置し教室づくりだが、この日は特別プログラムが用意されており、パーティーションにシートをはり簡易のスクリーンを作る。そのプログラムとは、休憩時間に韓国人アーティストによるミニコンサートを開こうというもの。これは日本基督教団の震災ネットワーク「東北ヘルプ」の提案による企画であった。韓国人夫婦デュオの歌声と映像で、被災者の皆さんを慰問しようというもので、各地を巡っているのだという。20分という限られた時間ではあったが、韓流デュオの美しい歌声の響きに、しばしおだやかなひと時を過ごしたのであった。



美しいハーモニイの歌声に聞き入る、講習生の皆さん。

出前寺子屋 in 石巻「検定合格講座」の仕組み

活動期間：第Ⅰ期 2011年8月16日～2012年2月4日

第Ⅱ期 2012年2月19日～6月9日

①スクーリング(漢検・英検学習)

2011年8月16日、9月4日、18日、10月2日、16日、11月5日、20日、12月11日、24日、2012年1月8日、22日、2月4日、19日、3月4日、18日、4月1日、15日、29日、5月13日、27日、6月2日、9日、17日

②会場 仮設開成ささえあい拠点センター集会所

③検定受検

平成24年度第1回漢検2012年6月2日

平成24年度第1回英検2012年6月9日

④受講対象者 仮設住宅、借上げ住宅等に居住する被災市民

⑤受講者特典 教材費・スクーリング受講費・検定料の全額が無料

さてこの日の漢検組の学習は、一週間後に控えた検定対策がメインであった。午後2時から30分は自主学習、ミニコンサートを挟んで午後3時から平成23年度第3回検定の過去問題に挑戦していただいた。集計できた15名の自己採点結果をみると、合格ラインを超えている方が10名である。残りの5名は合格ボーダー前後にある方で、はたして本番でどれだけ得点を伸ばせるか。一週間後の受検日までの取組み次第で、合否が分かれるものと思われる。ともかくも今回の検定は2級受検者が11名と多いため、難度、得点率ともにハードルが高くなっている。過去2回のような高い合格率は望めないだろうと覚悟をしている。



一方英検講座組は、欠席者1名と久しぶりにほぼメンバーがそろった。4級受検予定の3年生の二人は、受検日が部活の総体試合日にあたり受検を断念せざるをえなくなった。部活終了後スパートをかけ、10月に4、3級のダブル受験に挑戦することとなる。彼らは高校受験生、入試はまったなしである。

スクーリングではほっと一息つくような、ほほえましいエピソードに出会うことが多い。中3のE君が「修学旅行のお土産です」といって菓子折を渡してくれた。「40個ありますけど皆さんでいただきますか」とのこと。おやおや、受講生仲間の分も揃えたということか、何という気遣いであろうか。お母さんのアドバイスではあろうが、中3の男子がさりりと実行できるのはたいしたものである。その旨を皆さんに披露し召し上がっていただいたのだが、大きな拍手が起こったのはいうまでもない。 報告:谷村志厚

23年度第2・3回漢字検定合格者40名の内訳
2級-5名、準2級-12名、3級-12名、4級-4名、5級-3名、
6級-2名、7級-2名 (小中学生15名、一般25名)

ご支援ありがとうございます

当活動は支援参加者個人の負担と、ご援助をいただいた皆さんの浄財で運営しております。平成23年10月23日以降平成24年5月27日現在で、18の塾、学校及び団体さんから、総額368,458円の献金をいただきました。ありがとうございます。引き続き応援をお願いします。支援金の使途は、検定料、教材費の直接費用と交通費、通信費、スタッフ昼食費の間接費用にかぎり計上させていただきます。

2012年5月から、日本基督教団の被災支援ネットワークである「東北ヘルプ」のご支援もいただいています。

主催:全日本私塾教育ネットワーク(略称・私塾ネット)